

今日の日本、いや世界においては、その特徴の一つは、もはや基盤的に同じものが見られるのである。それは、テレビや画など、いわゆるメディア発達の結果であると一般にいわれている。しかし、日本に関する限り、こうした状況は、中々時代に誕生したといふ。

メディアの誕生

る限り、こうした状況は、中世
といふ時代に誕生したといえ
る。

●書名トされた台本

中世日本におけるメディア革命にとって決定的だったのは、

中世の魔界

バーバラ・ルーシュ (米コロンビア大学教授・中世日本研究所所長)

●旅する上演者の出現

● 旅する上演者の出現
おそれらく、高い教養をもつた人
たちによって手キリストがつくら
れたからこそ、教養のある人た
ちの鑑賞にたえる作品が生まれ
た。音声文学の形成に参加した人
たちには、いろいろな種類があ

「音声文学」で共通感情

たちがいない。メディア革命が成就するには、さうのもう一つの要素がつけ加えられなければならないなかつた。すなわち 音声文学の上演者の出現である。上演の重要な性質は、耳で聞いただけで理解できないような難解な表現を避けさせることだけでなく、観衆の反応を見ながら、演じ方を微妙に変化させることができると点にある。中世にはこうした上演者が多く出現した。彼らは、それが得意とした分野によって、琵琶法師、絵解法師、瞽女、熊野比丘尼などと呼ばれたが、いず

「京名所風俗図屏風」に描かれた絵解きする熊野比丘尼＝ルーシュ著『もう一つの中世像』（思文閣出版）から

老若男女階級問わざ

た人たちや生き残った人たちの魂を慰めた。同じように瞽女はおもに『曾我物語』をたずさえ、また熊野比丘尼は熊野権現のご利益や地獄極楽に関する話を、さらに絵解法師はいろいろな出し物をもって全国津々浦々を回った。

のほうが少なく、むしろ字の読めない人たちのほうが普通だつたろう。

こうして、中世に生きた人たちは、都會に住もうと田舎に住もうと、同じ物語に接したのである。階級の上下に関係なく、若いも若きも男も女も、すべて

音声と視覚物を伴つた音声文
字は、今日のテレビに近かつた
と思われる。むしろテレビと
は違い、一個所から全国に向か
て同時に放送されるのではなく
く、多くの上演者が基本的に同
じ出し物（テキストが背後にあ

◆毎週土曜日に掲載します。

李が誕生し、メディア革命が起った。その結果、従来のように一部のエリートだけでなく、日本人全體に共通した感情が初めて芽生えたのである。

絵解 絵巻物や掛幅（かけふく）の絵を語り聞かせるプロのこと。社寺で縁起物や高僧伝をテーマに上演した絵解法師に始まり、やがて市場や辻（つじ）で行う俗人絵解が生じた。後者の姿が、大きな折りたたんだ絵を旅行用ケースのふたの上に置いた武士風の男として、職人絵に描かれている。

熊野比丘尼とは女性絵解のこと、「観心十界曼荼羅（まんだら）」という掛幅をもって諸国を旅した。この中には人生の山坂を行く人の姿や、地獄極楽の様相、救済者としての地蔵や如意輪觀音などが描かれていた。それを道端につるして説教語りをした。